

令和7年度関東東海北陸農業試験研究推進会議経営推進部会春季研究会開催要領

農研機構 企画戦略本部 農業経営戦略部長
宮武 恭一

1. 趣 旨

農研機構では、研究業務の効率的な実施および研究成果の効果的な普及等により研究業務の波及効果を高める観点から、国、都県、大学、民間企業、関係団体、関係する農研機構の研究部門・センターの協力を得て、関東東海北陸地域の農業に関する試験研究を対象とする関東東海北陸農業試験研究推進会議を設置しており、このうち経営推進部会では農業経営に関する研究の深化のため、関東東海北陸農業経営研究会との共催で研究会を開催してきた。

現在、さまざまな分野で生成 AI の活用が進んでいるが、農研機構では、農林水産省や全国の公設試験研究機関などと協力し、大量の農業データを収集・学習させた農業に特化した生成 AI を開発し、2024 年 10 月より、三重県で試験運用を開始した。AI の導入は、農業従事者の高齢化や後継者不足の課題解決にむけた取り組みの一環であり、農業者の知識習得を効率化し、スマート農業をはじめとする最新技術の実装を加速するものである。

そこで本研究会では、農業経営におけるスマート農業と AI 活用の課題をテーマとして、農業分野において開発が進む AI を活用した最新の取り組みと今後の課題について報告していただく。それらを素材に、農業経営研究分野の今後の展開可能性について検討することを目的とする。

2. 開催日時 令和7年7月10日(木) 13時30分～7月11日(金) 12時00分

3. 開催場所 ハイブリッド形式で開催(対面:農研機構 農業環境研究部門 観音台東第2本館(つくば市)、及びオンライン(Microsoft 社の Teams を利用))

4. 議 事

1) 研究会 令和7年7月10日(木) 13時30分～17時10分

シンポジウムテーマ「農業経営におけるスマート農業と AI 活用の課題」(仮)

座長 寺谷 諒(農研機構 農業経営戦略部)

1. 岩手県における地域農業計画支援システム(RAPs)の活用と成果(仮)

安江 紘幸(農研機構 NARO 開発戦略センター)

2. JAさがみの農産物直売所における需要予測モデルの構築(仮)

岸 茂樹(農研機構 農業情報研究センター)

3. 直売所リアルタイム表示システム「見えベジ」を用いた顧客来店予測モデルの検証(仮)

保坂 三仁(東京都農林総合研究センター)

4. 三重県におけるイチゴを対象とした生成 AI の試験運用(仮)

桂樹 哲雄・大友 将宏(農研機構 農業情報研究センター)

コメント

西方 圭(千葉県農林総合研究センター)、吉田 晋一(農研機構 農業経営戦略部)

総合討論

2) 個別報告会 7月11日(金) 9時～12時(ハイブリッド形式で開催予定)

5. 参集範囲

農林水産技術会議事務局、農林水産政策研究所、関東農政局、東海農政局、北陸農政局、関東東海北陸地域公立試験研究機関、普及機関及び行政部局関係者、農研機構、その他部会長が必要と認めた者

6. 連絡先

農研機構 中日本農業研究センター 転換畑研究領域 畑輪作システムグループ 担当:澤田 守
茨城県つくば市観音台 2-1-18、E-mail: KTH-KeieiBukai@ml.affrc.go.jp TEL: 029-838-8423